

凛々しく～附属小温故創新～

2018/1/20 お話を聞く会 特別号

昭和59年に初めて附属小に教育実習でお世話になってから35年が過ぎようとしています。この間教師として、人として大切なことを教えて頂いたのが附属小での教員生活でした。今日は往時の附属小の様子からこれからの附属小に期待することまで、7つのキーワードにエピソードを加えてお話させていただきたいと思います。

Episode 1 原点

最初のキーワードは原点です。

今年で143周年を迎えた附属小のルーツについて簡単に振り返ってみます。また、私が学生時代の宮城教育大学の様子も少しふれさせていただきます。

Episode 2 憧れ

2つ目のキーワードは憧れです。

もちろんここでの憧れは「附属小の教員」への憧れです。私が教諭として附属小に着任したのは平成4年でした。お恥ずかしいのですが当時の写真を紹介しながら、当時の様子についてお話させていただきます。

Episode 3 衝撃

3つ目のキーワードは衝撃です。

何が衝撃であったかは話の中でふれさせていただきます。

Episode 4 交流

私が教諭として最後に過ごした平成16年は宮城教育大学にとって、そして附属小にとって大きな変化の1年でした。当時研究主任だった私は校内研究を推進することと同時に2つのミッションを遂行するように命ぜられます。今では信じられないような構想が当時具体化し、実現まであと一步、というところまで進んだのですが……。4つ目のキーワードは交流です。

Episode 5 使命

附属小の校歌にも登場する言葉です。附属を離れてみると見えなかったものが見えるようになることもあります。5つ目のキーワードは使命です。

Episode 6 東日本大震災

6つ目のキーワードは東日本大震災です。

平成23年3月11日。多くの大切なものを失った東日本大震災。これからの附属小を語る上でも大震災の教訓を決して風化させてはいけません。

Episode 7 前へ！

最後のキーワードは「前へ！」です。尊敬する明治大学ラグビー部の故北島忠治監督の言葉です。ここからは現在附属小で新たに行っていること、そして新たに附属小で行って欲しいことの話が中心になります。

以上を中心に事前にご質問いただいた「温故創新」「家庭で子どもと過ごす上で大切にしたいこと」についてもお話させていただく予定です。お聞き苦しいところはどうか聞き上手になってお時間までお付き合い願います。

(文責：副校長 手代木)